

である。

弁護士B

イ、利用の実態に徴して夜間も 8時半ぐらい迄は開館すべきだ。

ロ、開館時間を延長しても、日曜休館はこまる。

医師C

イ、人間の体は一週間働くと疲労素がうっ積する。

人の休むときに、つまり一週間に一日は休む必要あり
医師D

イ、実際に即して、臨時に職員をたのむとか(季節労働者)何とかして、やはり日曜日は休むな。

主婦E

イ、解説の中にも、平日と日曜日との利用度数でも示して下さればよかった。

ロ、高校生の為には、日曜日休館はどうしても困ると思います。

主婦としては、館の運営上やむを得なければ、いたしかたないと思う。

主婦F

イ、主婦としては上記のとおり(問 1休館=かえてよい、問 2延長=どうでもよい)ですが、子どもをもつ母親としては、日曜日の休館は余り感心しません。

ロ、係員を特設しても日曜日に、サービスしていただければ幸甚と存じます。

(2) 以上は、調査票の中に簡略に書かれたものであるが、口頭で猛烈に日曜日休館を反対したのは、医師 3、弁護士 2、であった。僧侶、牧師、本屋は、例外なく、日曜日休館を支持した。職業がら当然のことである。

(3) 日曜日休館は主婦Fがいているように、「大人としては、別に方法を考えます。しかし子供のためには困ります」というのが、賛成者全般に通ずる意見ではないかと思う。

つまり、日曜日休館賛成者は日曜日休館反対者ほど、熱烈ではない。熱烈なのは、牧師くらいのものであろう。

(4) 実際に調査して考えさせられたことは、猛烈な反対者とともに図書館の発展策を講じなければならない、ということであった。そのためには、やはり一つには学校図書館との不断の話し合いを盛り上げていって、学校図書館を完全に学生及び生徒のものとして、日曜日も運営できるように、育てあげることであり、二つにはそういう育てあげの仕事とともに、県立図書館が学生生徒から重点を一般人に切りかえていく努力と研究とがもっともと望まれるようである。

なお、昨年暮、市内中・高校長とも話し合いをもった結果

① 県立図書館の日曜休館にはあえて反対は出来ない

② 中・高校図書館の日曜開館は行われ難い。

(5) かつての図書館協議会委員の一人が、「一般人に重点を移した 場合の館内施設の 利用法、館外貸出の計画表、及び図書館資料の構成に関するプラン等」を積極的に県立図書館がうち出して、その上での日曜日休館をP

Rしなければ意味がないではないか、といていた。やはり耳をかたむけていいことである。

(6) 猛烈に反対する人の根拠は、「日本の社会は、子どもに自分の書齋などを与えられないのが現状だ」「それを知っていて、日曜日を休館するというのは後向きの姿勢じゃないか」「むしろ逆に図書館を大きくしていく方向を望む。そのためになら微力ではあるが協力したい」というようなことであった。

(7) 結論としては、「数字は休館にしてもよいように出たが、しかしやっぱり強烈な少数者の意見にも迷わざるを得ない」ということである。

2 館内奉仕

新館舎に移って約一カ年を経過したが、その間、どのように利用され、どんな成果をおさめたか、また、新館舎の機能は遺憾なく発揮できたか、それぞれの立場と角度から検討を加え、これを評価し、それにもとづいた対策をたてて、今後の発展を期したい。

A 新館舎に移ってから利用人員はどう変わったか

施設、環境が一変したために、利用者は急激に増加したが、依然として学生、生徒が圧倒的に多い。利用者総数の 70%が学生、生徒によって占められている。そこで、新館舎と、旧館舎時代の利用人員を比較してみると、(両年度の 4月～9月まで)新館舎の利用人員は、約 2倍の増加を示しているが、一般成人と学生、生徒の増加した割合は、学生・生徒の 2倍～3倍に対し、一般成人は、1.5倍前後に過ぎない。この増加率は公共図書館の性格上、望ましくないで、なんらかの対策を考える必要がある。

B どんな人々によって利用されているか

公共図書館の利用者の対象は、一般成人に求めることは当然であるが、現実には、学生、生徒によってその大半を占められているのが実情である。そこで、この学生、生徒を除いた利用者を職業別にわけてみた場合はどうか。まず第一位が無職(主婦をふくむ)次がその他の職業、官公吏、銀行会社の順で、最下位が農業である。無職が第一位にあることは、大学受験準備中の浪人が、大多数を占めているからである。この浪人は毎年増加する一方で、特に今年度あたりは、中学校を卒業した高校受験準備中の浪人が、目立って多くなっている。農業の最下位については、館舎の所在地が、市の中心附近にあるため、距離的にみて農村からの利用は望めないで、館外奉仕の分野において、貸出文庫の利用をすすめている。

C どのくらいの本が利用され、どんな内容のものが、多く読まれるか

利用人員の増加にともない、利用図書数も約12,600冊